

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表（平成30年度）

法人名	特定非営利活動法人 コレクティブ		川原 秀夫	法人・ 事業所 の特徴	利用者の思いや願い、どのように暮らしていきたいか？等を型にはめ込むのではなく、小規模多機能の特性を活かし、自由な発想や工夫を取り入れながら支援している。また、事業所だけで全てをまかなうのではなく、地域資源を広く活用しながら、臨機応変に対応して可能な限り理想へ近づけるよう努めている。
事業所名	小規模多機能ホーム いつでんきなっせ	管理者	梅田 和幸		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	3人	0人	1人	1人	1人	1人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価 確認	<ul style="list-style-type: none"> 年間スケジュール（地域の行事ごとも含む）を立てておくことで、前もって準備など全職員で取り組めるよう意識を高めていきます。 前回できなかった話し合いの様子はきちんと残すことで、会議の内容を見直すきっかけにしていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合った内容の云々については判断しにくいですが、できている、できていないがわかっているようであるし、具体的に考えているようなので、頑張って取り組んで欲しい。 広報誌にしても、のらくら屋にしても続けていくことが大事。これからも続けて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回に比べて話し合う時間の確保はできており、改善内容も具体的に考えているようなので、達成できるように頑張ってください。 この会議自体2か月に一度なので、そんなに突っ込んで見ていない。もっと事業所へ来る機会を作ると言っても難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当制から月ごとのグループ制へ変更して、環境整備なども担当することで、一人ひとりがリーダー、管理者目線になり、動くスタッフと動かないスタッフの差をうめていく。
B. 事業所の しつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 掲示板を活用し看板の設置を行います。 *もちろん、交通の妨げにならない配慮は行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 看板の件について まだ出来ていない。いまだに周知が十分ではなく、カーナビでもたどり着けない為、近くまで来てもらい、事業所から迎えに出ている。タクシーでもわからないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> もともとこの地域は道がわかりにくいので、仕方ないと思う。 無理して看板とか出さなくても良いのでは？隠れ家的でひっそりしているところが良さだとも感じる。（周知の点からも）のらくら屋を続けることのほうが大事だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 隠れ家的な雰囲気も大事にしつつ、看板になりうる材料はあるので、それを活かして近くまで来たらわかるような目印となるものを作成する。 ホーム内のしつらえを、定期的に見直し、環境整備を整える。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 地域へ出向く際は、ひらがなのネームプレートを身につけ、広報誌持参は参加していきます。 老人会の集まりには訪問看護のスタッフと連携（血圧測定等行う）し、小規模多機能ホームの認知度を高める活動を行います。 のらくら屋は地域の会食サービス（さわやか茶屋）の活動にならって、食と健康をテーマに企画を行っていきます。*4月はさつまいもで美腸作り 	<ul style="list-style-type: none"> 普通の名札は身につけているが、ひらがなのネームプレートを身につけることはできていない。 老人会の集まりには顔を出せていない。 のらくら屋の活動はテーマに沿って出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 老人会の集まりは憩いの家で毎月第1土曜開催している。前もって連絡あれば参加も可能である。 地域のお祭りに参加した時には、ブースを出してゲームを取り入れた催しを行い、子ども達にも参加してもらうことが出来た。事業所内にいるだけでなく、地域に出ていく事が大切と感じた。 のらくら屋に子どもも参加するようになると良い。 のらくら屋で地域にいる特技を持つお年寄 	<ul style="list-style-type: none"> 老人会の集まりには訪問看護と顔を出し、地域の意識が少しでも変わるための活動を行う。 子ども会の活動（去年はハロウィンパーティーへ綿菓子機で参加）へ利用者とともに参加し、連携を深める取り組みを行う。

			<p>りに教えてもらう企画も良い。人材の掘り起こしからになるが、担当する1人のスタッフに負担がかかっているのが、地域のネットワークづくりとともに、負担の分散にもなるのではないか。</p> <p>・長嶺校区で年に1回行われるオリエンテーションで、お年寄りから得意なことを教えていただく企画があった。そういう場所に参加して発言してみてもどうか。</p>	
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	<p>・今年度の広報誌のテーマとして、長嶺校区内外の地域資源を小規模の活動と絡めながら紹介してまいります。</p>	<p>・広報誌は定期的に作成出来ている。内容に関しては小規模を利用しながら暮らしておられる様子にフォーカスを当てる記事となり、変更する形での作成となった。</p>	<p>・本当は近所が一番なのだが、老人会にも入ってほしいので声を掛けるけどなかなか…入会しない。</p> <p>・近すぎると近所の目が気になるという方が多く、なかなか関われない。</p>	<p>地域のサロンへ参加し始めている利用者の支援を継続していく。</p> <p>・『ひきおこし』という葉草（利用者のライフワークのひとつ）の加工を共に取り組むことで、生きがいをもてる暮らしとなれるよう支援していく。</p>
E. 運営推進会議を活かした取組み	<p>・前年度はのらくら屋の企画で子ども会との関わりも持つことができたので、引き続きのらくら屋の企画へ参加を呼び掛け、世代間交流をおこなっていきます。</p>	<p>・子ども会への働きかけができていない。</p> <p>・メンバーもかわらず、世代間交流もできていない。</p>	<p>・マンネリ化が否めない</p> <p>・子どもの声も大切。事業所の雰囲気も良くなる。</p> <p>・長嶺校区の子ども会に関しては、今後は学校のPTAの1組織として取り込まれる形になってきている。子どもの参加を呼び掛けるなら、学校のPTAに関わりたい旨伝えてみるのも良いのではないか。</p> <p>・今の保護者と自分たちとの感覚のズレもある。今の保護者はトップダウンを嫌うので、その中で何とか子ども会の輪を固めたい、と思ってる流れになっている。ちなみに託麻地区は子ども会への参加が強制だが、長嶺校区は自由。そういう点は、町の新旧によっても異なる。</p>	<p>・運営推進会議へ参加して良かったと思ってもらえる様な内容への改善、地域について一緒に考えていけるような場となれるよう取り組んでいく。</p>
F. 事業所の防災・災害対策	<p>・年間スケジュールのなかにきちんと年2回の避難訓練は盛り込み、少なくとも1カ月前から計画を立て地域にも呼びかけを行う。それ以外にも部分的な訓練（消火器の使い方、AEDの使い方など）間に入れて、防災に対する意識の低下を防いでいきます。</p> <p>・ホワイトボード等を活用（人員確認、火元責任者の見える化）し、緊急時の連絡をスムーズにします。</p>	<p>・年間2回の避難訓練は出来ている。但し、地域への呼びかけができておらず不十分。また、部分的な訓練も行えていない。</p> <p>・ホワイトボードの活用はできている。</p>	<p>・今までの訓練では夜間想定のもが多く、夜勤担当者が一人でバタバタと訓練する形になってしまっており、実際の非常時に落ち着いて対応できるかが不安</p>	<p>・日中想定訓練を繰り返し行うことで、全スタッフが初期消火→通報→避難誘導とスムーズに動くことができるように取り組んでいく。</p> <p>＊年2回（3月 9月）の定期に加え、更に2回（大がかりにはしない形で一連の流れを身につけるため）追加する。</p>